

第3回 調布市産業振興プラン策定検討委員会 会議録

令和6年8月8日(木)
午後3時から5時まで
調布市役所5階 市長公室
傍聴者 0名

<出席委員>

八幡 一秀, 鎌田 裕美, 秋沢 淳雄, 大前 勝巳, 三浦 崇, 渡邊 智宏, 長峰 美夫

<欠席委員>

高木 克人, 戸嶋 容子, 武口 彩佳

<その他出席者>

西田 良太(高木委員の代理)

<次第>

- 1 開会
- 2 本日の出席者について
- 3 (仮称)調布市産業振興プランの骨子構成(案)及び骨子(案)について
- 4 事務連絡
- 5 閉会

<資料>

- 資料1 第3回調布市産業振興プラン策定検討委員会出席者一覧
- 資料2 (参考資料)(仮称)調布市産業振興プランの位置づけについて
- 資料3 (仮称)調布市産業振興プランの骨子構成(案)
- 資料4 (仮称)調布市産業振興プランの骨子(案)

<会議録>

1 開会

2 本日の出席者について

八幡委員長 要綱第7の規定により、西田氏の出席（高木委員の代理）を求めたいがいか
がか。

（一同、異議なし）

3 （仮称）調布市産業振興プランの骨子構成（案）及び骨子（案）について

事務局より資料2・3・4の説明が行われた。

八幡委員長 はじめに資料2・3についてご意見やご質問を伺い、その後資料4について、
ご議論いただければと思うがいかがか。

（特に異議なし）

資料3について、「中小企業・小規模事業者」ではなく「中小企業・小規模企
業」とした方が良いのではないかと。2013年に「小規模企業振興基本法」とい
う法律ができており、「小規模企業」という表現になっている。

事務局 基本構想、基本計画に限らず、これまでも「中小企業・小規模事業者」とい
う言葉を使っている。基本構想、基本計画との整合を図るという観点から、
この表現で進められればと思う。

八幡委員長 中小企業庁の法律では、「小規模企業」で統一されている。

秋沢委員 商工会では「小規模事業者」という言い方をしている。商工会の中には、商
店を一人で運営されている場合も多い。国では、この場合でも企業という位
置づけなのか。

八幡委員長 業種により、規模の上限が異なる。製造業その他であれば20人以下、卸売・
小売といった商業・サービス業であれば5人以下を指す。「小規模企業」と
いう法的な定義があり、経済産業省では白書を始めとして「小規模企業」と
いう表現を使用している。プランは経済産業省の文書ではないので、基本構
想や基本計画と整合を図るのであれば「小規模事業者」でも良いと思う。

事務局 基本構想、基本計画との整合と、個人で事業をやられている方をイメージし
やすいことから、「小規模事業者」という表現を使わせていただければと思
う。

八幡委員長 承知した。この表現のままにしたい。特にご意見がないようであれば、この
まま資料3の骨子構成については原案通りで決定ということによろしいか。

（特に異議なし）

それでは、資料3の骨子構成はご了承をいただいたということで、資料4に
移っていきたい。何かご意見やご質問はあるか。

長峰委員 第2章について、これまでの取組を示しているが、それに対しての評価がな
い。このプランの性格上(ビジョンタイプということがあるのだと思うが)、

このような構成としているのかと思うが、通常であれば、実施したことに対しての評価があると思う。また、39 ページ下から3行目「15～49 歳までの若者」とあるが、49 歳までを若者としていることに、違和感があるので、書きぶりを工夫していただければと思う。

事務局 第2章は、評価までしていないがこれまでの取組を棚卸している。第3章は現状と課題としており、第2章で実施してきたことを含めて、第3章にまとめている。これから骨子案を素案にブラッシュアップしていく過程で、構成や記載内容を検討していくため、皆さまからご意見をいただきながら、どういう形が望ましいのかを決めていきたい。

また、若者の記載については、厚生労働省の就職氷河期の世代を含めた就業支援では、15～49 歳を広く若者と捉えている。個別の事業により、若者の対象を30代までや40代までにすることもあるが、「若者サポートステーション」事業については、15～49 歳を対象としていることもあるため、そのような表現としている。「若者」という表現ではわかりづらいということであれば、「15～49 歳の方」というように表現の変更を検討したい。

長峰委員 第2章については、それらの評価も含めて第3章の現状と課題に書かれたのだと思うが、第2章についてはかなり具体的で特定した記載になっており、一方で第3章以降はかなり一般的な書きぶりになっているので、少し違和感がある。

また、「49 歳までの若者」では、違和感がある人が多いと思う。少し書きぶりを変えていただければと思う。

事務局 京王線の国領駅すぐ近くの「調布市市民プラザあくろす」内に厚生労働省の委託事業として「若者サポートステーション」があり、そちらでやっている事業においては、数年前から就職氷河期の方々を考慮して若者の対象を15～49 歳に拡大したという経緯があるが、「若者」という言葉だけだと違和感があるので、ここの表現は工夫したい。

長峰委員 政府の方針で49 歳までが若者ということであれば、注釈をつければ良いと思う。

大前委員 33 ページ(1)市内事業者の3段落目に「デジタル化 (IT化) への支援」が、(2)商工業の4段落目に「商店会数の減少、役員の高齢化・成り手不足に対応」がそれぞれ課題として挙げられている。こうした課題に対して、デジタル化については、39 ページ(7)中小企業・小規模事業者への支援の2段落目に「デジタル化に向けた技術支援も充実」とある。商店街については、37 ページ(2)魅力ある商店街の形成に向けた環境整備支援の2段落目に「役員不足や高齢化のために組織の維持が難しくなっていることから、組織力を高められるような取組についても積極的に検討」と記載されている。両方とも具体的に示されていないことから、今後施策を検討するにあたっては、是非、商工会や関連する部会と協議をしていただき、具体的な施策を検討し

ていただきたい。

また、34 ページの2 段落目のVFR（友人や親族を訪ねることを目的とした旅行）に関する課題を受けて、38 ページ（5）に「地域の“推し”を市民が自発的に発信するように働きかける等」と具体的に手法まで書かれている。広報誌等で市の魅力に関する意見を募るといったやり方では思ったように効果が得られないと聞いたことがあり、せっかく実施をしても結果が伴わないのではもったいないので、実施方法を綿密に計画し、市民の方が自発的に情報を発信したくなるような仕組みで進めていただければと思う。

事務局 方針として現段階で具体化が難しいところは、抽象的な書きぶりになっている。商店会支援については、デジタル化への支援も含めて商工会との連携や、東京都の制度の活用も検討しつつ、1～2 年で結果を出すというよりは、長い期間の中で試行錯誤をしながら、少しでも皆様の環境が良くなるようにやっていければと思う。

また、市民の方の自発的な情報提供については、こういったやり方であれば情報発信しやすいのか等、市民委員の長峰委員や武口委員をはじめとし、この会議に限らず様々な方のご意見やアドバイスを踏まえて、進めていければと思う。

渡邊委員 市民からの声がということで、他市の話を紹介したい。とある市では、駅前が賑やかだが、一部地域に関しては盛り上がり欠けるといった状況があった。その際に、5 名くらいの若い経営者が集まって、まちを盛り上げていこうということになった。3 年ほど経過しているが、毎年、若者を中心にイベントを継続して開催していると伺っている。今年は、夜を盛り上げることをテーマに闇市を実施し、大人だけではなく、市内の小中学校の子どもたちも安心して来られるような内容にする予定とのこと。こうしたイベントを開催するに当たっては、年に数回、市民の方の意見を聞くために会議を開いているとのこと。市民を巻き込むというと、ネットや広報で意見を募集することも多いが、意見が集まりにくいという話も聞く。この市では、意見を直接聞く機会を設け、イベントに反映させることで、上手にまちの活性化に図れているのではないかと思う。

長峰委員 他市では、観光協会を法人化しているところが結構ある。産業振興課の中で担当職員の方々は観光協会の仕事を兼任体制として大変良くやられていると思う。これが組織の法人化により職員が専任になると、さらに動きやすくなるとともに、アイデアが出やすくなり、機能的になると思う。調べたところによると、東京都 26 市の中では、一般社団法人が 11 市、公益社団法人が 1 市、NPO が 4 市、調布市と同じように市の中にあるのが 5 市となっていた。多くの市では、観光協会が独立した組織となっている。すぐには難しいとは思いますが、中期的には法人化を検討していただくと良いと思う。

事務局 市でも観光協会の法人化は 10 年以上前から課題として挙げられており、法

人化の検討をしている。また、観光協会の中でも検討されている。市議会からも観光協会を独立化・法人化した方が機能的に動けるのではないかという話をいただいている。ただし、現状では、観光協会の事務局員を兼ねている産業振興課の正規職員が十数人おり、会計年度任用職員を含めると20人程度になる。同様の条件で法人化する場合、観光協会の職員として20人程度を直接雇用することとなるが、人件費を予算化することは簡単なことではないと考えている。他の自治体では、法人化後も自治体職員が何人か出向して、運営を支援し、軌道にのせているとも聞く。法人化に関しては検討を進めるため、今年度も近隣自治体の実態調査やヒアリング調査を行っており、引き続き検討していく。

秋沢委員 商工会の役員の立場として、この骨子案を拝見すると、身が引き締まる想いである。行政側から、先々にわたり、産業振興に関して取り組んでいこうという意思が伝わってくる。我々商工会の方がもっと頑張らないといけない。現状では市内に6,000事業者いると言われているが、商工会の会員数は3,000弱くらいなので、組織率は50%しかなく、残りの50%の未加入事業者については実態を十分に把握できていない。こうした課題を踏まえて、商工会への加盟数を増やしていかないといけない。このプランで数値目標は掲げないが、商工会としてはそこをしっかりと見据えていく必要があると思う。また、商店会や商店街については、様々な取組の記載があるが、工業や建設業がほとんど出てきていない。33ページの(2)商工業では大半が商業に関する記載の中、「工業及び製造業の開業や営業がしづらいという課題」と記載があるが、工業や製造業が営業しづらいのではなく、ものづくりできる環境がないし、工場が移転してしまっている。今ある製造業を今後、どう維持してものづくりを進めていくかなど、工業についても踏み込んで考えていきたい。

また、37ページの(3)地域特性を生かした産業振興では、映画、スポーツ、水木マンガに絞られているが、深大寺の歴史、神社仏閣、国宝があるので、深大寺も入れた方が良いのではないかと。

最後になるが、プランができて、魅力あるまちかどうかは、市民が決めることだと思う。今回のアンケート結果は非常に参考になった。3～5年経ってから、市民に対するアンケート調査を入れてほしい。先々でもアンケート調査を実施して評価できる仕組みを入れることができないだろうか。

事務局 商業施策の中心を担っていただくという観点から考えると、商工会の組織率の向上は、重要な視点だと思うので、記載については相談させていただきたい。現状では、商業を中心とした方針になっているので、工業や製造業にも何らかの形で触れていければと思う。37ページの(3)では企業にフォーカスを当てたイメージで記載している。深大寺は、観光面の中核をなすので、38ページの(4)多様な主体との連携によるにぎわいの創出の中で「深大寺」

も含めたフレーズで記載できればと思う。また、アンケートの実施については、プランの改定時に実施していく予定である。その他、企画経営課でも毎年市民意識調査をしているので、そこで市民の声を把握することもできる。プラン専用のアンケートと、毎年実施するアンケートの併用を考えていければと思う。

三浦委員 仕事上、集客や回遊の創出を考えないといけない立場からの意見となるが、36 ページの2を踏まえながら、38 ページの(5)様々な手法を活用した効果的な魅力発信の具体化に当たっては、どの世代に向けてやっていくのかで対応が変わってくると感じている。私の家庭での話だが、旅行に行こうとなった際、40 代の妻は旅行雑誌や飲食店の紹介サイト等を見ていたが、10 代後半の娘はそういう媒体は全く見ずに、SNSを見ていた。ターゲットをしっかりと捉えた上で、どこに向けて何を発信したら良いのかをしっかりと考えていかなければという感想を持った。また、持続的な地域産業の基盤づくりでは是非やっていただきたいのは、若い方をどう産業に呼び込むのか。デジタル化を進めていくに当たっても大事だと思う。

西田氏 電気通信大学の立場でいうと、市内に大学があるのも地域特性だし、自ずと学生が集まるまちだと思う。大学、地域の方、行政がさらに連携できれば良くなるのではないかと。大学では、市外からお越しいただけるようなイベントが多いので、集客や回遊のところで、連携してご支援できるのではないかと。今後の取組のところで、例えばデジタル化であれば、今年から中小企業省力化投資補助金等も設けられているので、そうした補助金を積極的に活用すると、キャッシュレスの導入等は比較的容易にできると思う。課題が資金であれば、そうした国の制度等を積極的にご提案できる方がいれば、スムーズに進んでいくのではないかと。また、地域特性を活かした産業振興に関しては、ローカル 10,000 プロジェクトというものがある。自治体、事業所、金融機関が連携して取り組む総務省の事業となるが、そうした大きなプロジェクトがあることを調布市から発信していただくと、地域の方や事業所の関心が集まり、積極的なマインド形成になるのではと思う。

鎌田副委員長 長峰委員が仰られていたことが重要だと思う。骨子案について、どう読んでいけば良いのかわからない。第1章、第2章、第3章と各章は短編ではなく、一連のつながりがないといけない。第1章の「策定にあたって」の下から3行目に「各施策の推進による「集客」「回遊」「消費」の循環の生成をテーマに、総合的な産業振興につなげる」とあるが、これまでの産業振興プランではこれは掲げられていなかったのかどうか、今一つ分からない。また、第2章の「これまで取組」というのが、記載されている取組がどのくらいの期間で進められてきたことなのか分からない。やってきたことの成果があったかどうかを調べるのは大変な話だが、変わった点や残された課題は整理しないといけないのではないかと。第3章でいきなり現状と課題になり、唐突

感がある。第2章から出た課題なのか、新たに出た課題なのか。そこがよくわからないまま、35 ページ以降に基本方針と取組方針になるが、ここもどのような課題を踏まえたうえの方針なのか分からない。ここで一番重要なのは、第2章に記載された取組によって、どういう効果が発揮できたのか。あるいは、課題が残っているから取組を継続するのか、効果が薄いからやめるのかといった取捨選択をしないといけないが、それがそのまま書かれている。観光分野の内容を見ると、これまでやってきた取組と同じことをやろうとしているのではないかと思う。単に理由もなくこれまでの取組を継続していくということであれば、わざわざ方針に掲げることではない。これまでの取組から、このような課題が見えたので、こういった対策が必要と検討し、その結果、これまでと同じ取組を継続するというのであれば納得できる。直面している課題をしっかりと捉えていることを示さないと、総花的に字面を並べただけになる。戦略と戦術は違う。戦略とは目指すべき方向性を示すもので、戦術は達成するために具体的にどうするのかを示すものだが、それを分かるように書かないといけない。戦略を立てるためには、理想の姿と現在の姿のギャップを認識しなければいけない。それがすなわち課題になる。課題があるから、未来の理想の姿に向かっていくための戦略を立てる。その戦略を達成するために、具体的に何をしていくのかを示していくこととなる。しかし、この骨子の36 ページ以降は、戦略と戦術が混在している。方針を示しているのかと思って読んでみると、非常に細かいことを書いていたりする。今後の取組方針も同じ。非常に細かく書いてあるところがある一方で、方向性を書いてあるところもある。戦略が書かれているのか戦術が書かれているのか混在しているので、読んでいる人に混乱を招く。プランは市民の方に対して説明する資料なので、調布市がどういう課題を認識していて、それに対してどういう取組をしていくのか示さないといけない。

また、「集客」「回遊」「消費」の循環と書いてあるが、基本方針のどこに循環があるのかがわからない。「好循環を創出します」「好循環を下支えします」と2と3に書いてあるが、1には「喚起」しか出てこない。それらを「循環」させるというのは、どういうことなのか。資料2の赤いところでは「循環」が表現されているが、「循環」とはどういうことなのか。そのあたりの関係性がプランの中ではよくわからないので、一度、体系をきちんと作った方がよい。そのためには、これまでやってきたことを評価し、課題を洗い出す。その課題に対して、どういう戦略を立てて、どういう戦術をするのかを書かないといけない。細かい話だが、34 ページでは(4) 起業・創業についてとなっているが、4 ページでは「事業者支援」「雇用・就労について」になっており、言葉が対応していないので、課題に対してどうするのかのつながりが分からず、対応していないように思う。また、4 ページでは「地域若者サポートステーション事業」とあるが、39 ページでは「ちょうふ若者サポ

ートステーション事業」となっている。同じ話なのか違う話なのかが分からない。全体的に、どう読めば良いのかをわかるようにしてもらいたい。取り組んでいるから課題は出てくるので、課題があることは悪いことではない。課題を認識して、それに対してどうやって取り組んでいくのか。全ての課題に一気に対応していくことはできないので、このプランにおいてはこの程度まで進めていく、という風に整理されていれば問題ないと思う。ネガティブであることを認識して、それを少しでもよくするためにどうするのかのアクションプランを書くことが大事。色々な情報が埋もれているので、活かす方向で書いていただけると良い。

事務局 現時点では、章ごとのつながりが出来ていない面があるので、全体のストーリーを持って構成を再検討したい。各章のつながりや連動性を意識しながら構成を再検討して、わかりやすいプランにしていきたい。

八幡委員長 皆さまからのご意見を踏まえて、プランをより良いものにしていただければと思う。

4 事務連絡

事務局より次回策定委員会の日程について、説明が行われた。

事務局 次回の第4回会議は11月14日（木）15時開会予定。場所は市長公室。第4回会議後にパブリックコメントを予定している。本日のご意見を踏まえて修正した骨子案やプラン素案について、第4回会議の前にメールにて皆さまにご意見をいただきたい。

八幡委員長 事務局より、第4回会議の前にメールにて修正した骨子案やプラン素案についてご意見をいただきたいと提案があった。そのように進めたいと思うがいかがか。

（特に異議なし）

5 閉会

鎌田副委員長 議事が全て終了したので、第3回調布市産業振興プラン策定検討委員会を閉会する。

以上